

司式 杉山昌樹牧師

奏楽 大日南苗香姉

前 奏

開 会 招 詞

* 賛 美 歌 7 : 1

1. 父の神よ夜は去りて、新たなる朝となりぬ。我らは今御前みまえに出いでて、御名みなをあがむ。アーメン

* 開 会 祈 禱

罪 の 告 白 祈 禱 書 2 罪 の 告 白 ①

神かみよ、わたしを憐れあわんでください。御慈おんいつくしみをもって。深い御憐れふか おんあわれみをもって、背そむきの罪つみをぬぐい去さつてください。わたしの咎とがをことごとく洗あい、罪つみから清きよめてください。わたしは咎とがのうちに産うみ落おとされ、母ははがわたしを身みごもったときも、わたしは罪つみのうちにああったのです。わたしを洗あってください。雪ゆきよりも白しろくなるように。神かみよ、わたしの内うちに清きよい心こころを創そうぞう造あたら、新たしく確れいかな靈たまをささずけてください。救すくいの喜よろこびを再ふたたびわたしに味あじわわせ、自由じゆうの靈れいによよって支さえてください。主しゆよ、わたしの唇くちびるを開ひらいてください。この口くちは、あなたの賛さん美びを歌うたいます。主しゆイエス・キリストの御名みなによよって。アーメン。 (詩編51)

罪の赦しの宣言

十 戒 祈 禱 書 4

1. あなたは、わたしのほかに、何なに者ものをも神かみとしてはならない。
2. あなたは自分じぶんのために刻きざんだ像ぞうを造つくってはならない。それにひれ伏ふしてはならない。それに仕つかえてはならない。
3. あなたは、あなたの神かみ、主しゆの名なを、みだりに唱となえてはならない。主しゆは、み名なをみだりに唱となえる者ものを、罰ばつしないではおかない。
4. 安息日あんそくにちをおぼえて、これを聖せいとせよ。
5. あなたの父ちちと母ははを敬うやまえ。
6. あなたは殺ころしてはならない。
7. あなたは姦淫かんいんしてはならない。
8. あなたは盗ぬすんではならない。
9. あなたは隣人りんじんについて偽証ぎしやうしてはならない。
10. あなたは隣人りんじんの家いえをむさぼってはならない。隣人りんじんの妻つま、またすべて隣人りんじんのものをむさぼってはならない。 (出エジプト20、申命記5)

* 賛 美 歌 87 : 1

1. 地みよ神かみに向むかひ喜よろこびたたえよ。御名みなの栄光さかえをほめよ。その誉ほまれ歌うたえ。御神みかみに告つげまつれ。み業わざおそるべし、主あだはみ力ちからをもて仇あだを伏ふさせたもう。

共同の祈禱 祈禱書 18 聖霊降臨節 第一主日 ペンテコステ

聖なる神さま、あなたを讃えます。主イエスの約束にしたがって、聖霊が使徒たちの上に降り、新しい時代の教会が生まれました。今も聖霊のお働きにより、わたしたちを信仰に燃えるようにし、御言葉により忠実な弟子として整え、わたしたちが、全ての国にキリストを宣べ伝えることができるように、力を満たしてください感謝します。

(使徒2、ルカ24、「聖霊」三)

献 金 (黒) 教会活動 (赤) 東北伝道 70

今献ぐるそなえものを 主よ 清めて受けたまえ アーメン

聖書朗読 使徒2章14～21節 (新約聖書215頁)

説教・祈禱 「一緒に新しい言葉を」 杉山昌樹牧師

* 賛美歌 37:1、4

1. 神はわがやぐら わが強き盾、苦しめるときの 近き助けぞ。

おのが力 おのが知恵を 頼みとせる 陰府の長も など恐るべき。

4. 暗きの力の よし防ぐとも、主の御言葉こそ 進みに進め。

わが命も 我が宝も 取らば取りね、神の国は なお我にあり。アーメン

聖餐式

* 主の祈り 祈禱書1

天にまします我らの父よ

願わくは御名をあがめさせたまえ

御国を来たらせたまえ 御心の天になるごとく 地にもなさせたまえ

我らの日用の糧を 今日も与えたまえ

我らに罪を犯す者を我らが赦すごとく 我らの罪をも赦したまえ

我らを試みに会わせず 悪より救い出したまえ

国と力と栄えとは 限りなく汝のものなればなり アーメン。

* 頌 栄 65

父、み子、みたまのおおみかみに、ときわにたえせずみさかえあれ。アーメン

* 祝 禱

後 奏 (黙禱)

報 告 門脇献一長老 (司会・受付 次週：古澤純一長老)

本日 受付 1階：那珂信之・星野房子執事 2階：藤井牧子執事 / ZOOMホスト・録音：大日南信也

次週 受付 1階：森永美保・加藤良明執事 2階：若月学執事 / ZOOMホスト・録音：門脇光生

※ 2グループ制により、長老も1階と2階に一名ずつ加わります。

使徒言行録2：14-21 「一緒に新しいことを」

説教の始まり

今日の所は、ペンテコステの出来事です。そこでペテロが教会として最初の説教を語る個所です。ある意味では、教会で説教を語るということは、このようなものだ、というお手本のようなところ、と言えるかもしれません。その点では、私も襟を正して、この説教から聞いていきたいと願っています。とはいえ、今回はその途中までです。しかし、ここで教会とは、私たちとは何であるのかが、すでにしっかりと語られているのです。キリスト教会とは何か、というのはわかりきったことのように、なかなか一言で説明しにくいものです。神様のいるところ、イエス様の体、神様によって集められた人たちの群れ、みんなが愛し合うところ、神様の愛を知らせるところ、まだまだあるかもしれません。しかし、今日は、一つのことからはじめます。それは、教会とは新しい始まりを告げるところだ、という見方です。

反対する人たち

とはいえ、この時ペテロが語りだしたのは、ただ何となくではありません。明らかに、ペテロたちに反対する声があったのです。一つ前の節には批判の言葉が語られています。「あの人たちは酒に酔っているのだ」といって、あざける者もいた。「あざける」ですから明らかに悪意があります。もっとも、この時聖霊を受けた人たちの様子も、そういったことを知らない人たちには異様に見えたのかもしれませんが。では何が異様だったのでしょうか。彼らがこの時語った言葉の特徴は大きく二つあげることができます。一つは、13章6節に「自分の故郷の言葉が話され」とあるように、ヘブライ語やその親戚のアラム語といった当時よく使われていた言葉以外の言葉が語られたという点です。もう一つはその内容です。ここでは彼らが具体的に語った内容は記されていません。ただ、11節には「彼らがわたしたちの言葉で神の偉大な業を語っている」とあります。すなわち、これは明らかに神さまについて語る言葉だ、ということが、きちんと聞けばわかったのです。この点、すなわち神さまの言葉が、各国語になって一斉に語られる、これは全く新しいことです。時代を先取りしています。そして、新しいことが起きる時には、それを異常だ、分からない、と思う人たちもまた、出てくるのです。けれども、この所でまさにペテロは、そのような人たちにも神様の言葉を聞いてもらおうと、声を張り上げているのです。

11人と立つ

ここではペテロが説教を語り始めています。しかし、そこで忘れてはならないことがあります。それは、「ペテロは十一人と共に立つて」という言葉です。仲間と一緒になのです。同じ体験をした人たちと一緒になのです。もっと言えば、イエス様に結び付けられた人たちと一緒に語っているのです。たとえ声を張り上げているのはペテロであったとしても、そこに一緒に支えてくれる仲間がいるのです。これは、私たちにとっても同じです。わたしたちが、何かを語ります時、とりわけ、イエス様について、語りだします時に、そこには、当然イエス様が一緒に居てくださるのです。しかし、それと共に、同じ霊をいただいた仲間も、たとえ同じ場所になかったとしても、一緒に結ばれているのです。たとえば祈禱会などで私たちは、集まって祈ります。それぞれが祈って、お互いに、アーメンと言います。あのところで、私たちは、自分が祈りました言葉に、他の参加者の方たちが、本当だね、そうなりといいいね、と励ましてもらう体験をします。けれども、それはただ祈禱会の時だけではなく、聖霊によって結ばれた私たち一人一人が、いつでもそのように結ばれている事実を示しています。その点では、私たちが日常生活にある時にも、実は私たちは決して、ばらばらではないのです。そしてこの事、すなわち、わたしたちがばらばらではない、という事実もまたとても新しいのです。

預言の実現-新しいことが

そしてペテロは、この自分たちが体験した新しい出来事を、聖書の言葉を使って人々に語り始めるのです。16節に「これこそ預言者ヨエルを通して言われていたことなのです」と力強く宣言しています。神様がかつて与えて下さった聖書の言葉、それが現実のことになった。それも自分たち自身に実現した、と言って聖書の言葉を語り始めるのです。ただし、ここでは決定的な言葉が加えられています。そ

これは、17節の冒頭の言葉です。「神は言われる。終わりの時に、私の霊をすべての人にそそぐ」。ちなみに、ヨエル書の語りだしはこうです。「その後／わたしはすべての人にわが霊を注ぐ。」(3:1)。ヨエル書では2章から、「主の日」ということが言われています。それは様々な恐ろしい出来事の始まりとして描かれています。そして、「その後」に霊を注ぐことが起きていく、と続いています。しかし、ペテロは、ここで、そのような主の日の前に、新しいことが始まった、というのです。その新しいことが始まる時こそが「終わりの日」だ、と言いたいのです。それで、終わりの日、と言いますと教会節の長い方は、終末、黙示録とピンとくるかもしれませんが。けれども、このことについては、もう少し後でお話しできればと思います。このところでペテロが言いたいのは、とにかく終わりの日が来るのだけれども、「その前に」ということです。「終わりの日」の前に、やることがたくさんある、それはもう始まっていると言うのです。

すべての人が預言する

そこで注目したいのは、今日の聖書でヨエル書から引用されたところの「霊の注ぎ」と、「預言」という言葉です。これこそ、まさにペンテコステの日に実現しています。神様の霊、聖霊が注がれて、人々が神様の業について語りだした、それがペンテコステです。そこでさらに17節で注目したい言葉があります。それは「すべての人」と言われていることです。ここでは、まず、あなた方の息子と娘、とあります。これはおそらくイスラエルの人たち、その子どもたち、という意味です。その次に、若者と老人が登場します。さらに、僕、はしため、と続きます。これは、いささか古い言い方です。差別的な言葉です。直訳すれば男女の奴隷、召使といった意味です。でも、わたしの僕、はしため、ですから、神様に従う人たち、という意味にもなります。そのように考えますと、ユダヤの人たちから始まって、若い人も、年を取った人も、およそ神さまに従う人ならだれでも、あらゆる人たちに向かって、聖霊が注がれる、というように読めます。しかも、それはただ、なんとなく霊が与えられて終わりではないのです。ここでは、17節と18節の霊の注ぎ、に挟まれて幻、夢、ということが言われています。この幻、という言葉は、ギリシア語では「見る」という言葉と関係が深い言葉です。また、「夢」は聖書では、神様がご自身のご計画を知らせるためにしばしば用いられています。そうしますと、聖霊が注がれるということに伴って、神様のヴィジョンが示されていく、見えてくると言われているのです。それもすべての人にです。そして、そのようにして与えられたヴィジョンこそ、預言として語られていくというのです。このようなことが、今日の前で起きているでしょ、とペテロは力強く語っているのです。

主の日を目指して

ところで、宿題になっていました、終末についてです。皆様は大会や、中会の修養会などで、私たちは終末的時代に生きています、といった言葉を聞いたことがないでしょうか。聖書では特に黙示録に終末の様子が描かれていますし、福音書、例えばルカでは21章でイエス様がその様子を語ってくださっています。その言葉を読んでみます。「ルカ21:25 「それから、太陽と月と星に徴が現れる。地上では海がどよめき荒れ狂うので、諸国の民は、なすすべを知らず、不安に陥る。21:26 人々は、この世界に何が起ころのかとおびえ、恐ろしさのあまり気を失うだろう。天体が揺り動かされるからである。21:27 そのとき、人の子が大いなる力と栄光を帯びて雲に乗って来るのを、人々は見る」。これが、今日の19節以下とよく似ていることは一度見るだけで明らかです。しかし、ルカ、そしてこの使徒言行録でもそうですが、はっきりしていることがあります。それは、この場合の「主の日」とは、単なる世界の終わりではなく、明らかにイエス様がもう一度来られる日という意味であることです。「人の子が大いなる力と栄光を帯びて雲に乗ってくる」というのはその意味です。そして、ペテロは、このようにイエス様がもう一度来てすべてが完成する前に、このヨエル書で預言されたことが、もっと、もっと広がっていく、と言いたいのです。

主の名を呼び求める

そして言うまでもなく、ヨエル書で最もはっきりしているのは、「私の霊をすべての人にそそぐ」です。私たちにもまた、この主の霊が注がれているのです。今、すでにそうなのです。なぜなら、私たち

はすでに「主の名を呼び求めるもの」だからです。さらにいえば「主の名を呼び求めて『救われた』もの」です。或いはまだ洗礼を受けたり、信仰告白をしていない方であれば、これから、このようなものとされることができるのです。そのようにして、わたしたちが、そもそも、イエス様の名前によって救われることができている、というヴィジョンを与えられるのもまた、この注がれた聖霊のお働きによる以外にありません。そして、このような働きは今も続いていて、今度は、わたしたちが、与えられたヴィジョンを語ることによって、私たちの時代、これから後の時代において、救われる人が起こされ続けるのです。これから先も、この教会で「主の名を呼び求めるもの」が起こされ続けるのです。これもまた霊において与えられるヴィジョンです。そして、私たちは、事あるごとに、イエス様の名を求めて、祈り続けるのです。そうして、祈っていく私たちにおいて、神様のヴィジョンは実現していくのです。

ペテロと共に立つ—一緒に新しい言葉を

そのようにして与えられる教会の言葉、私たちの言葉は、全く新しい言葉です。この世にない言葉です。私たちは、あたかも酒に酔ったようなもの、とみられるかもしれませんが、けれども全く確かなこととして、私たちは、自分勝手に何かを語っているではありません。教会において、言葉が語られる、それは、最初から最後まで、聖霊なる神さまから与えられるヴィジョンに基づくものです。そのようにして私たちの中で、神様の業が始まっていくのです。それは、この最初のペンテコステの時といささかも変わりません。ペテロたちが一緒に立ち上がって声を張り上げて語りだしたように、わたしたちもまた共に立ち上がって「知っていただきたいことがある」と言って語りだすことができるのです。

祈り

今も天で私たちをご支配くださるばかりでなく、主イエスと共に聖霊を遣わしてくださる神様。私たちはあなたに召し出されました。あなたによって幻を与えられ、何よりも新しい命に生きることを教えていただきました。また、この新しい命の働きを知らせる言葉を頂きました。私たちもまた、あなたの御業が実現していることを喜んで、語るべき時に大胆にその事実を証するものとしてください。ここに神様の業が実現していると、語るものとさせてください。私たちの中に、ますます神様の業をあらわしてください。この週の歩みを力強くお導き下さい。主イエス・キリストのみによって祈ります。アーメン